

## 石垣商店における生物多様性保全活動

石垣 雅裕 松井 美津子

株式会社石垣商店 〒463-0068 愛知県名古屋市守山区瀬古1丁目629

### Biodiversity conservation activities at Ishigaki Shouten

Masahiro ISHIGAKI Mitsuko MATSUI

Ishigaki Shouten Co., Ltd., 1-629 Seko, Moriyama-ku, Nagoya, Aichi 463-0068, Japan

Correspondence:

Mitsuko MATSUI E-mail: matui@ishigaki-st.com

#### 要旨

石垣商店（以下、当社）は、地域社会と自然環境が企業の持続可能な活動に不可欠であると認識し、生物多様性の保全に積極的に取り組んでいる。当社の活動は大企業が行っているような多大な資金や労力をつぎ込むものではなく、外部からの協力を得ながら可能な範囲で行う保全活動である。本報告では、2か月に一回程度の環境調査や年一回の作業によって生物多様性保全の活動を行い、「あいち生物多様性企業認証」を取得することができた事例について紹介する。

#### はじめに

2022年、当社は「あいち生物多様性企業認証」を獲得した。当社は変圧器、制御盤関連の銅部品を製造している企業であり、生物多様性とは全く関係のない企業である。しかしながら、企業の成長と持続可能な発展は、地域社会や自然環境との共存に大きく依存していると考えている。このように考えることになったきっかけは、名古屋工業大学で開かれた「産官学まなびあいプロジェクト」に参加し、保全生態学研究室の学生たちと関わったことである。これらを通し、自然資源の持続的な活用と保全が企業の長期的な繁栄に不可欠であると認識し、環境保全を企業の社会的責任として認識するようになった。当社は、従業員の環境意識を高めるための教育を重視するとともに、地域社会への積極的な貢献を目指している。そこで大学などの研究機関と連携することで、その専門的な知識や技術を活用した生物多様性の保全に取り組もうとしている。地域の生態系保全に寄与し、企業として持続可能な社会の実現を支える役割を果たしていくことは難しいことのように感じがちだが、当社だけで

なく、外部機関の力を借りつつ取り組んでいる事例を紹介することによって、大企業のように大規模な資金やマンパワーがなくても、生物多様性の保全に取り組むことを知っていただき、多くの企業の取り組みにつながることを期待する。

#### マメナシの保全活動

三重県桑名市多度町に位置するマメナシの自生地（図1）は、国の天然記念物で日本最大の群落を形成しており、遺伝的多様性の保全において非常に重要なエリアである。マメナシは水分の多い明るい環境を好むが、放置されると湿地の植生遷移や富栄養化により光環境が悪化し、乾燥化が進み群落が衰退するリスクがある。この自生地の保全は地域の生態系維持にとって欠かせないものとなっている。

この重要な自生地を保護するため、「多度の自然を守る会」及び桑名市ブランド推進課は、マメナシの若木を保護するネットの修繕や成長観察を行い、必要に応じて周辺樹木の伐採も実施している。当社は、自生地の環境

要因の測定を行っている名古屋工業大学保全生態学研究室が主導する調査に協力し、特に地下水位調査を担当している。2023年から2か月に1回の頻度で、自生地内に設置された地下水位測定用パイプを用いて、地面から出ているパイプの長さ、パイプの口からパイプ内の底までの深さと水面までの深さ、湿気のある地点の確認などを計測している（図2）。このデータは、マメナシの成長環境の変化をいち早く知ることによって、環境の変化による樹勢衰えなどを分析し、今後の保全活動に役立てるために使用されている。例えば、2024年は猛暑が続く夏であり、自生地の地下水位も低下した。このことがマメナシの樹勢に大きな影響を及ぼしていることが示唆され、地下水位の低下を防止する処理が必要であることがわかった。これらの調査は、マメナシが健全に成長できる環境を整えるために欠かせないものである。自生地

の保全活動は年に2回程度の草刈りのみであり、環境の変化に対する対処をするのが難しい。継続的な地下水位測定は自生地を保全する上で重要であり、生物多様性の保全活動はこのような形でも行うことが可能であるという一例である。

#### トウカイコモウセンゴケの保全活動

愛知県瀬戸市に位置する、あいち海上の森の湿地（図3）には、希少植物であるトウカイコモウセンゴケ（図4）が生育する貴重な生態系が存在している。この場所は、愛知県が策定した「海上の森保全活用計画2025」のもとで、自然豊かで魅力ある森林・里山づくりを推進し、地域との交流を通じた里山文化の拠点づくりや次世代を担う人材の育成を目指している重要な地域である。

当社は2021年から名古屋工業大学が主導する保全活



図1. マメナシ自生地



図2. 地下水位調査



図3. 海上の森の湿地（2023年12月14日撮影）



図4. 海上の森の湿地に生育するトウカイコモウセンゴケ

動に定期的に協力している。具体的な活動として、草刈りや湿地・道中のゴミの収集、湿地内のミズゴケやヘドロの除去のほか、年1回冬季に湿地内の有機物を多く含む表層土を、スコップを使って剥ぎ取る作業を行ってきた（図5）。なお、トウカイコモウセンゴケは非常にデリケートな植物であり、踏むと簡単にダメになってしまうため、作業中は足元に細心の注意を払っている。こうした活動により、トウカイコモウセンゴケが健全に生育できる環境が維持されている。



図5. 表層土の剥ぎ取り作業の様子（2023年12月14日撮影）

### おわりに

当社は、「自然環境や地域社会があるからこそ、企業や地域の人々が持続的に活動できる」という信念を環境方針として掲げ、地域の自然環境や課題に真摯に向き合い、積極的な保全活動を展開している。今後も、自然環境や地域社会との共存を重視し、地域との連携をさらに深めながら、環境保全活動に取り組み、持続可能な社会の実現に向けて努力を続けていく考えである。

### 謝辞

名古屋工業大学の増田理子教授の研究室との協力により、三重県桑名市多度町でのマメナシの保全活動や、あいち海上の森におけるトウカイコモウセンゴケの保全活動に関われたことに深く感謝します。